

実演資料「オムツ交換場面の手指衛生」

利用者の設定	状況設定	〈参考〉手指衛生の5つのタイミング
※利用者に見立てた人形を使用 90歳 女性 要介護4 自力で寝返り可 ベッド上での生活 意思疎通可、尿意あり 認知症はあるが、協力動作は得られる	場所:利用者の居室(個室) 尿失禁した利用者の尿取りパットの交換と、 陰部清拭を温タオルで行う ※施設により尿失禁時の対応は様々 陰部洗浄、陰部清拭、パット交換のみなどの 場合が考えられるが、今回は上記設定にし、 手指衛生の5つのタイミングを実演(全体の 終了後に手洗いで終了)	1 利用者に触れる前 2 清潔・無菌操作の前 3 体液に触れた可能性がある場合 4 利用者に触れた後 5 利用者周辺の物品に触れた後

行動		手指衛生の理由	環境の区分
準備			共有 エリア
手指衛生		2.清潔操作の前 (物品の汚染を防ぐ)	
①	必要物品を準備をする		
②	居室のドアを開けて閉める		利用者 ゾーン
手指衛生		1.利用者に触れる前 (介助者の手からの感染防止)	
③	個人防護具(マスク、ディスポエプロン、手袋)の着用を行う ※マスクは常時着用している施設が多い現状	2.清潔操作(個人防護具)の前 (個人防護具の汚染を防ぐ)	
オムツ交換・陰部清拭			
④	利用者の掛物を外す 汚物を入れられるようごみ袋の口を開き、利用者の足元に設置 する 使い捨て温タオルはすぐ使えるよう、袋を開けておく		
⑤	利用者に腰を上げてもらうよう声掛けする		
⑥	パジャマのズボンを膝まで下げ、開閉式オムツ・尿取りパットを 開く		
⑦	尿取りパットのみ汚れているため、汚れた尿取りパットを外し、 ごみ袋に入れる		
⑧	使い捨ての温タオルで陰部と臀部を清拭し、使用した使い捨て 温タオルと手袋をごみ袋へ捨てる		
手指衛生		3.体液(排泄物)に触れた可 能性がある場合 (利用者自身の病原体から職 員と利用者ゾーンを守る)	
⑨	新しい手袋をつける		
⑩	利用者に腰上げしてもらい、新しい尿取りパットをつける		
⑪	利用者に横向きをしてもらい、しわやずれがないか確認する		
⑫	尿取りパット、開閉式おむつの順に閉じる		
⑬	パジャマのズボンを上げる		
⑭	足元に設置していたごみ袋をベッドの端に動かし、利用者に 掛物をかける		
⑮	手袋を外し、ごみ袋へ入れる		
手指衛生		4.利用者に触れた後 (利用者自身から職員と共有エ リアを守る) ※手袋を外した直後に手指衛生	
⑯	続いてディスポエプロンを外しごみ袋へ入れ、袋の口を縛りワゴ ンのゴミ袋に入れる		
手指衛生			共有 エリア
⑰	ドアを開けて閉め、ワゴンを押し退室する		
片付け			
⑱	ごみ袋を汚物室に廃棄する		共有 エリア
手指衛生 (流水手洗い)		一連の作業終了後	

